

東海・北陸ブロック

## 1.プログラム詳細

### 【日程】

#### <1日目>

13:00～13:30	(30)	<b>受付</b>
13:30～13:45	(15)	<b>開会</b> ・主催者挨拶:内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付 交通安全啓発担当 参事官補佐 横山 和子 ・来賓挨拶 :三重県環境生活部 次長 北村 文明
13:45～14:45	(60)	<b>講演</b> 「自転車の事故防止のために」 (一財) 日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之
14:45～15:00	(15)	<b>休憩</b>
15:00～16:00	(60)	<b>活動実践発表</b> 「子どもの交通安全～保護者に対する指導法～」 三重県松坂多気地区交通安全対策会議 交通安全教育指導員「とまとーず」 「リフレ糸(反射糸)を使った手作り啓発品の紹介」 三重県交通安全母の会連合会 副会長 永田 奈美
16:00～16:15	(15)	<b>全体討議・質疑応答</b>
16:15～16:45	(30)	<b>グループ別交流(自己紹介及び役割分担検討)</b>
16:15～17:00	(15)	<b>事務連絡</b>

<2日目>

8:30 ~ 9:00	(30)	受付
9:00 ~ 10:00	(60)	講演 「これからの子どもの交通安全教育と指導者」 安全教育研究所 所長 星 忠通
10:00 ~ 10:10	(10)	休憩
10:10 ~ 11:10	(60)	グループ討議(4テーマ、6グループ) 1班:子どもに対する交通安全活動における課題と対応 2班:子どもに対する交通安全活動における課題と対応 3班:高齢者に対する交通安全活動における課題と対応 4班:高齢者に対する交通安全活動における課題と対応 5班:自転車の交通安全活動における課題と対応 6班:飲酒運転に対する交通安全活動における課題と対応
11:10 ~ 11:40	(30)	グループ討議結果発表・全体討議及び意見交換
11:40 ~ 12:00	(20)	講評(コーディネーター 石井 征之先生)
12:00		閉会

## 2. 講義等の記録

### 【1日目】

#### 講演

#### 自転車の交通事故防止のために

(一財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之

10 ページの北海道ブロックでの講演録参照。

#### 活動実践発表

#### 子どもの交通安全～保護者に対する指導法～

#### 三重県松阪多気地区交通安全対策会議

#### 交通安全教育指導員「とまとーず」

松阪市からやってまいりました。現在の交通事故、松阪市はワースト 10 内にいつも入っています。三重県にはあと 1 箇所、昔非常に多いところがありました。これがもうすぐ F 1 グランプリがあります鈴鹿市です。この 2 つの町がお恥ずかしながら競い合っていたのですが、何とか先に鈴鹿を静めて、今、松阪も大分下がってきました。

我々は、特に交通弱者、子どもと高齢者にウエートを置いて活動していますが、子どもの事故が余り減らないもので、少しずつ手法を変えて活動しています。そのせいか、子どもの総事故件数は約 40% 前後まで減ってきました。やはり何か変えていかないと事故は減っていかないのですね。ワンパターンですずっとやっていると減らないのです。

特に最近の子どもさん、非常に頭の良い子がたくさんいます。

交通安全とは何か？と子どもに聞かれたらどう答えます？ 難しく考えないで簡単に考えてください。「交通安全」の字をバラバラにしてみると良く分かります。人や乗り物は行き交う、交じる。で、通るという字ですね。移動する。安心、安全の安ですね。全ての人や乗り物という感じで、バラバラに見ると大体見えてくるのです。この言葉をつなぎ合わせると、全ての人や乗り物が安心して行き交うことが交通安全です。

そのためにルールとかマナーがあるのですけれども、行き交うということはどこかで交わるということですね。ですから、一歩外へ出ると必ず道路はどこかで交わっています。そういったところで怪我をしないようにするために、ルール、マナーがあるのですね。こういったことをきちっとやっていけば事故は出ないはずなのですが、残念ながらたくさん出ているということです。

今の子どもらは非常に賢いですよ。我々の子どもの頃と大分違います。賢いからといっ

て今の大人は子どもにがんがん知識を入れ込むのですね。頭でっかちになっているのです。頭がでっかくなっていくと、下半身が育っていないですから、ドテッとコケます。そういった状態が今の子なのです。下半身もしっかりすれば良いのです。

そういったことで、我々は、交通教育は頭で考え体で覚える、体を動かして覚える、これを基本的にやっています。こういうことに随分中身を入れ換えてきました。そうしたら、やはり事故は減ってくるのです。ですから、一方的に部屋の中でルールをどんどん出して、覚えるとするのではなくて、体で覚えるというのが非常に大事なことです。

子どもというのは非常に真似することが好きです。反復することも好きです。競争することも好きです。冒険が大好き。こういったことを交通教育の中に少し混ぜていただいて交通安全教室をやっていただくと、なおさら楽しい。交通安全教室というのは、楽しくなければ面白くないのですね。そういった感じで我々はやっております。「遊びは成長のサプリメント」と言われております。遊び感覚というのも、余り遊びを入れると良くないのですが、そういった気持ちでやっていただきたい。

そうこうやっているうちに、子どもはどんどん成長していきます。特に五官がどんどん成長していくのですね。視覚、聴覚とか感覚器があるのですが、交通安全に一番大事なのは、目。目の力、こういったところがどんどん良くなってきたのですが、残念ながら、ちょっと一方伸び悩んでいるものがある。それを邪魔しているのが今の大人です。大人と、今我々が生活している社会なのです。子どもらは4月から1年生になりましたから、もう1人で社会人として歩いていくのです。

この中で、では、どうしたら子どもの事故をなくせるのかということで、色々な手法があったのですが、我々もそんなたくさんのはできません。人もたくさんいないですし、何かポイントを置きましょうということで、止まって見る、止まって考える、止まって確認する。要は、止まれということです。止まるということは非常に大事なのですが、なかなか大人もやっていない。

我々はキーワードを「止まる」「見る」に切り換えてきたのです。これだけしかやりません。自転車教室でも歩きの時でもそうです。これを幼児の時から徹底してやります。1年生になってからでは遅いのです。1年生になったらもう1人で歩いていくのですから、幼児の時にやらないと余り効果がないということですね。

子どもの事故というのは一杯あるのですが、一番多いのは飛び出し。色々なところで、何か飛んでいるとすぐ走って追いかけるとか、何も考えていません。あるものに集中して、飛び出し。飛び出したらいけないという知識はあるのですよ。あるけれども、何か面

白いものが飛んでいると、おーっと追いかけて行く、こういった特性がある。

それと、途中で青がチカチカしたら慌てて戻る子がいる。止まる子もいる。小学校低学年というのはこれが結構多いのですね。さっき走って追いかけるとか、こういった戻る子、これは意外と男の子に多いのです。三重県の調査ですけれども、こういった特性があります。

あとは、大人の人達、周りにいる人、それ行け、早く渡れ、何ぐずぐずしとると、これ言っていないですか。信号変わるよ、早く行きなさいと、これを言ってしまうと、子どもは心のブレーキが壊れてしまうのですね。ですから、こういう言葉は言ってはいけないのです。道路上は特に。

お家に帰ると、早く風呂入りなさいとか宿題しなさいとか言いますね。もう日本の親はせかすばかりなのですね。だから、渡る時になると、もう走らにゃいかんと思込んでしまうのですね。そういった特徴がある。結構これは日本全国多いのです。アメリカに行くと、こんなことを言うと罰則をもらうのですね。言ってはいけないのですよ。日本は罰則が無いものですから、好き勝手に言う、そういった感じであります。

とにかく飛び出しが多いのです。ほとんど飛び出しですね。色々な飛び出しがあるのですけれども、この飛び出しという行動を止めなければいけないわけです。そこで、さっき言ったように、止まって見るというのがどれだけ大事かというのをずっとやってきました。

そうこうやっているうちに、実は今年のお正月ぐらいにアメリカの学者さんが、日本には面白い遊びがあるじゃないか、これをやったら多分飛び出ししなくなるぞということをおっしゃった方がいる。この遊びというのが皆さんご存じですね。「だるまさんが転んだ」。おっ、これをやったら飛び出さないのかと思って、学校へ行ってちょっと試したのですね。ところが、面白いことがあった。

今の子どもはこれができないのですね。一発でフラフラ、ボタンとなってしまう。ぴたっと止まれないのです。何でかなと思って見ていたら、とにかく集中力が無い。前で鬼さんがこうやっている時の行動をじっと見ておれないのですね。ですから、こういう弱点があるのかと。集中力、判断力、瞬発力が無い。でも、これはやっていけば上手くなるかもわからんということで、ずっと試したら確かに上手くなりました。

飛び出しはしていないかなと思って、先生に協力いただいて、ビデオを撮ってもらったのですが、朝の学校前の横断歩道が大分変わったと校長先生がびっくりされていました。とりあえず幼稚園も卒園するまでに、歩く、止まる合図を出して、見て、また渡る、これができる。車が来ていたら、もう1回待って、合図するわけですが、これが完全にできる

ようになって小学校に送り出しましょうというのを三重県は指導員のつながりで統一したのですね。

とりあえず卒園前にしっかりこれが1人でできるようにしましょうということ。どこを歩くのか、どこで止まるのかもちゃんとこの中に入っております。さっき石井先生のお話があったように、自転車はどこ走るのが、そういうのもありますね。この中で、止まる、見る、聞く、こういったことを重点的にやってきたわけです。

それから、道を歩くときは周りの人に迷惑を掛けないようにということで、歩き方もそうですが、周りの人に迷惑を掛けないような行動をしますということを伝えてあります。そういった歩き方もやらせています。自分達で考えて歩きなさいということでやっております。こうやって立ち話をする子は非常に迷惑になるでしょうということを気づけばいいわけです。

あと、横断前、止まるのはどこで止まるのが良いのかな、左右が良く見えるかな、何を見るのかな、こういったことを考えながらしっかり見る、これが大事なものですから、特に低学年、1年生は重点的にこれの反復練習をやらせる。誰も手は貸しません。自分達で考えてやってくださいということです。

子どもさん、渡る時に基本的な行動、右左を見るのは当たり前ですね。これで渡ったり、これができるようになったら、次、右左とか後ろとか前、こういった全方向を見て渡る練習をする。このツーステップですね。こういった考えで練習をやっております。その場合、教えるボランティアの方はこういったことをちょっと頭の片隅に入れていただいて、動体視力と静体視力、動きながら見る視力と止まって見る視力というのがある。子どもにも当然あります。視野もあります。動きながら見ると視力は衰えます。視野も狭くなります。これをボランティアの方が知っておかないといけないなということで、大人の人に集まっていただいて、後で指導員にやってもらいますけれども、これぐらいは知っておいてくださいという感じですね。

例えば、目白大学の小野寺先生からいただいた資料ですけれども、2歳、3歳、4歳と、例えば発達心理学でこういったことがあるそうです。こういうことを4歳、5歳で信号を見て渡る。左右が、右左がわかる。できますか？ 今の子。できないでしょう。昔の子はできていたらしいです。

こういったチェック項目をもとにやっておるのですが、いかにも最近の子どもさん、頭は立派だけれども、鞠つきはできない、でんぐり返りができないとか、色々な話題があります。ですから、こういったものを参考に、色々と交通安全教室にも加えさせてもらって

おります。

さっき目で見ると言いましたけれども、目の話が出ました。年長さんで、卒園前、1年生に入る前に1.0は見えて欲しいよなど。皆さん見えていると思っていたでしょう。見えない子がたくさんいるのです。だから、そんな子に、はい、止まって右左と言っても見えていないのですね。視力が発達していない。

何で発達していないか分かりますか？これはもう社会の責任ですね。テレビが綺麗になった、ショッピングセンターが明るくなった、夜買い物に行くようになった。そういったものが目の発達を妨げているのです。子どもは9時に寝て、目をつぶりますね。つぶって、朝起きます。目をつぶっている間に視力が成長するのですよ。そういったことで、非常に視力の問題、残念な結果になっています。でも、我々はめげずに頑張りました。

動体視力検査。これ見ておいてください。まばたきすると見えないですよ。はい。何か見えましたね、下の方が。何が通っていきました？

車でした？ ああ、バイクとかね。色々な答えが出ますね。これだけの人でも意見がばらつくのです。ちょうどお昼過ぎですから、ちょっと目の威力が弱いのですね。高齢者の人はもっと弱いのです。色、分かりました？ 緑っぽかったですね。何人乗っていました？今日はサービスでゆっくりします。はい、いきますよ。ゆっくりやりますよ。はい。

最後の質問をします。車でしたね。ドアに何か字が書いてありました。見えましたか。これは小学生6年生くらいには見えるのですよ。すごい力です。やはり動いていると何でも見えにくい。動いている車をこうやって見ておっても見えづらい、運転手の顔が見えない。止まると人間の目というのはすごい威力が出る。

止めますよ。はい。数字が書いてある。はっきり見えるでしょう。止まってしっかりやると、静体視力ですから、パチッと見える。でも、人間は動くと駄目なのです。動いているものとか、自分が動いている時も駄目なのです。そういったことも含めて、あとは視野の問題。子どもの見え方、大人の見え方、右を見ても車の陰になっても大体見えている。子どもがここに立つと、ちょっと見える。

これは小学校3年生です。平均身長138cm。この違いをボランティアの人も知っておかないといけないのです。知らずに、右見て、何か来るかな？では駄目なのです。何か来ているかい？子どもの立場に立って色々な質問を与えていただきたい。そのために視野を拡大しないとけないのです。

さっきの視野の問題、色々と皆さんが良くご存じのチャイルドビジョンを持ってきました。ご存じですね。幼児から大体小学校の2、3年生までの視野はこれだけしか見えてい



ませんよという小道具です。これは全国に出回っています。これをつけて、ちょっとあることを試していただきたい。今、いくつかチャイルドビジョンを配っていますので、順番にかけてみてください。代表の方、ちょっとお願いしたいと思います。

(実演)

他にも方式があるのですけれども、使ってトレーニングしてから外に行って横断の練習をしてみるとかいうと、結構子どもの目つきが違うのですね。やったとやらないでは、やはり準備体操と一緒にです。随分違いますので、1回試みていただきたいと思います。

あとは、横断歩道を渡る時も ちょっと映してもらえますか。渡るのですけれども、この白線の上でよく立ち止まる子がおります。横断歩道上には止まれマークとかは絶対ありません。これをしっかり小さいうちに言っておかないと、横断歩道の上は止まっても良いのだと思っている子どもたくさんいるということです。真っすぐ渡って、ちょっと斜めに行く。渡り切らずにちょっと斜めに行く。これがとても多いのですね。やはりちゃんと最後まできちっと渡り切るというのが大事なことです。これが1年生で特に大事なことです。

子どもさんは裏路地の交差点でよく飛び出して事故をしていますけれども、家の近くは気が緩んで目力も緩んでいますから、こういったところでやるのは当然かなと。かなり自分の遊び場になっていますのでね。

それから、もう1つ実験をやりたいのですが、正確に素早く動けますか。前にトンネルみたいなものがあるのですが、目で見て、頭で考えて、手足を動かす、体を動かす。これが正確にできるかどうか。この実験をやってみたいと思います。今、指導員が持っていますけれども、3つカラーボードがあります。

ルールがあります。赤いボール、右へ逃げる。黄色、受ける。緑、左へ逃げる。この簡単な3つのルール。トンネルの中をどの色のボールが転がってくるか知りませんが、この色を見て、体をどっちかに動かすとか、受けるとかいう動きをとっていただきたい。

(代表者が体験)

色を見て、頭で考えて判断する、そういう感じですか。では、よろしいですか。何色かわかりません。赤を受けようと思いましたね。別に心配なせずに、誰でもミスをするのです。正確に素早く動かすには、これは何回も繰り返し練習するとできるのです。子ども達は3回ぐらいやるとできます。

こういったものをしっかりと回すように、認知判断行動がしっかり回るようになって道路に出ると、車とか信号の色を見て、考えて、体はそのとおり動いていくということで、これはドライバー教育でも使うのですけれども、子どもさんにも非常に役立っています。

ですから、是非こういった遊び感覚のちょっとしたトレーニングも取り入れてやっていただきたいということですね。

最後になりますけれども、旗も、時々当番されると思うのですが、たくさん立っていただいています。残念ながら、この三重県下では、昔、20年ぐらい前ですかね、色々なトラブルが生まれて、もう少ししっかりと教えてくださいますということ。旗当番のお母さん、お父さん、あなたも歩行者です。

こういった交差点で一杯立っていただいています。非常に賑やかに立っていただく。良いことなのですが、この中で実は間違いがある。分かりますね。特に言われているのがこれですね。子どもさんが歩いていく、子どもさんを背中で挟むようにして、真ん中の辺に立っていますね。これは実は余りよろしくないのです。横断歩道上は停止しては駄目なのです。旗当番の人も歩行者なのです。だから、両サイドにこうやって立つのが当たり前。これはよく運転手から、危ないじゃないかといって文句が来ます。

ちょっと試しにやってみようのですが、もう1つ問題なのが、たくさんの人が出ていただくのは嬉しいのですが、旗がいっぱいになります。子どもは渡っているのに、旗がいっぱい並ぶと、実は子どもの視線は低いのですから、右左を見ようとしても途中で見えないのです。ですから、旗のトンネルと言いますが、トンネルの中を子どもは渡っているのです。と言いながら、大人は後でちゃんと見なさいよと言うのです。それではまずいので、やはり旗の高さ、本数などはちゃんと考えてやっていただきたいということです。

また、何でもかんでも旗をいっぱい振ればいいということではないのです。本当はない方がよいのですけれどもね。止まる位置とか、しっかりと止めておいていただきたい。で、車が走ってきます。車には早目に旗で合図を上げてください。この時に高く上げないと車の人には見えない、下の方にだらっとしていても見えないのです。ですから、子どもが渡っていますよということを早目に知らせていただくと、早目にブレーキをかけてスピードを遅くするということです。

止まっている車の後ろから来る時があるので、その辺を注意していただいて。1人で立つときは、向こうから来る、左側から来る車にもちょっと注意をしなければいけないので、両方確認しています。

十字路も多いのですが、直線道路でもやはり子どもさんがちゃんと渡る、これが一番よいのですが、やはりしっかりと旗で車両を止める、こういったものが基本的な姿です。立つ位置も考え、あと1人立っていただくと良いかなということですね。早目

に気づかれます。

特にこういうのが怖いのですね。背中を向ける。車両に背中を向けると、非常にこれは危険なのです。目と目が合いませんから。ですから、車両には絶対背中を向けないことです。信号機を昔の感覚で捉えている方が多いもので、歩行者信号がチカチカしている。これは黄色ということで、一緒ですね。これが赤になってもまだ車両用信号は青なのです。これを頭に入れておかないと事故になる時があるのです。そういったことで、どんどん車は曲がってきます。非常にこの時の事故も多いのです。

最後、赤ですね。これは実際、鈴鹿市であった事例です。朝、400人の子供たちが交差点を歩いて渡っていくのです。これはとんでもない数なのです。ここの信号が青になって、それ行けで旗を持って出ていくわけです。こっちは青ですから車両は来るのです。で、どんどん渡していくのですが、この信号、そのうちチカチカするのです。それでもそれ行け、渡れ渡れでやる。赤になっても2、3人残っていた子を渡そうとする。

これが問題になって、ここは青ですから、車は発進しますね。もう身動き取れなくなるのです。で、ドライバーの人からも苦情が出た。どうなっているのだと。ワッと出てきて、皆さんどかないのです。我々、交差点で、皆さん歩行者ですから道路上に勝手に出ないでくださいというお願いをしました。ここの中にどうしても誰か出ていかななくてはいけない場合は、もう今の世の中、1人しかいない。これは警察官です。警察官以外は出られない。こういった講習をやったら、ピタッとこういったことはなくなりました。

そういったこともありまして、子ども達の成長をどんどん助けていかななくてはいけない。成長するには安全教育も大事ですけれども、食事も大事ですね。人を良くするために。人へんを上置いて、良くするという字を下へつける。食べるという字ですね。人をよくすることは食事なのです。こういったことも非常に大事なかなと思います。

今、食事を摂らない子が結構います。これも交通の色々な体の発達に障害が出ますので、食事はちゃんと摂ろうねと言っております。高齢者にはもっと色々な果物とか野菜とか食べて欲しいというお話をしますが、とりあえず子ども達にご飯は食べましょうと。

ということで、とまとーずは「止まる」「見る」をしっかりボランティアの指導員たちで囲んで教えています。止まらないと何がいけないか、どうして止まらなくてはいけないか。動いていたら見えないからというのを理解していただくためです。そういったことで、少しずつやり方も変えて、成果の出るやり方を変えて実施しておりますので、何かの参考になればと思います。時間を少し過ぎましたけれども、これで松阪市とまとーずの発表は終わらせていただきます。ありがとうございました。

**リフレ系（反射系）を使った手作り啓発品の紹介**  
**三重県交通安全母の会連合会 副会長 永田 奈美**

三重県交通安全母の会連合会の永田副会長を中心に、リフレ系（反射系）を使用した啓発品として、ミサンガの作成を紹介、作り方の説明が行われ、参加者全員で手作り啓発品の作成に取り組んだ。

**【2日目】**

**講演**

**これからの子どもの交通安全教育と指導者**  
**安全教育研究所 所長 星 忠通**

56 ページ東北ブロックでの講演録参照。

## グループ討議の結果

### 1 班

討議テーマ	子供に対する交通安全活動・課題対応
活動状況	<p>子どもの実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学3年生への自転車教室 年3回(3校)</li> <li>・各小学校ごとにヒヤリマップ作成。目立つ所に張り出して注意してもらう</li> </ul> <p>母親の参加(意識高揚)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・母親による安全ポスター作り</li> <li>・母親に対する自転車講習会</li> </ul> <p>母の会等の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全マスコット作り 新1年生への贈呈</li> <li>・交通安全カルタ 各幼・保育園に配りゲームを通じて学ぶ</li> </ul>
課題の抽出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全教育が日常生活に定着しない</li> <li>・子ども自身の参加型教育の場のチャンスが少ない</li> <li>・全員の参加が少ない</li> <li>・学校の関心が薄い</li> </ul>
対応・解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園と保護者との協力が必要と訴える</li> <li>・粘り強く、定期的に働き続ける</li> <li>・園と学校の総会の時に、交通指導のアピールをする場を設ける</li> </ul>

### 2 班

討議テーマ	高齢者に対する交通安全活動における課題と対応
問題点	<p>横断時の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車は自分を見ていてくれるから大丈夫</li> <li>・車が遠くに見えるので大丈夫だ</li> </ul> <p>身体機能の低下</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信号のある場所まで歩くのが面倒くさい</li> <li>・足腰が弱くなった</li> </ul> <p>自転車のルール</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車を利用していてもルールが分かっていない</li> <li>・足が悪いので自転車が離せない</li> </ul> <p>高齢者の交流</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしの老人が多く、話し相手になってやりたい</li> <li>・引っ込みじあんの高齢者をいかに引き出すか</li> </ul> <p>高齢者の性格</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何に対しても、注意しても聞き入れてくれない</li> </ul>
対応・解決策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横断時の危険や身体機能の低下などには、参加・体験型のプログラムを取り入れ、自覚させて指導する。</li> <li>・高齢者の交流・性格については、交流を通して参加させることをまず一歩として行っていく。</li> </ul>

### 3班

討議テーマ	自転車の交通安全活動における課題と対応
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人でも良く分かっていない自転車のルール</li> <li>・歩道通行時、歩行者が歩くべき場所を教えることも必要ではないか</li> <li>・道路の整備がされていない</li> <li>・教材の不足</li> <li>・幼児への自転車教育は必要か</li> <li>・幼児の保護者への指導のやり方はどうしたらよいか</li> <li>・シミュレーターを使つての実技指導がパターン化</li> </ul>
疑問	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルメットは大人も必要か</li> <li>・自転車に積む荷物の正しい積み方はどうすればいいか</li> <li>・自転車保険にはどのような種類のものがあるか</li> </ul>
対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢に合わせた指導カリキュラムの作成</li> <li>・学校の先生の知識・意識向上</li> <li>・歩行者が一番であることの意識付け</li> <li>・高校の生徒会と一緒に自転車マナーキャンペーン</li> <li>・自転車の補助がとれたら安全教室に参加することを義務付ける</li> </ul>

### 4班

討議テーマ	交通ボランティア活動の運営における課題と対応
課題	<p>組織の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員として若い人がなつて来たが、仕事等の関係で事業・行事に参加しない</li> <li>・2年ほどやつて辞めてしまう人が多い</li> </ul> <p>予算について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性部自体の予算がなく、市安協の下で活動している</li> <li>・活動資金元が毎年変わらずに続けていくことは難しい</li> </ul> <p>県組織として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決まつた役員だけが動いている</li> <li>・各地域では活動しているが、県全体としてのつながりが希薄</li> </ul> <p>会員の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の高齢化に伴う活動の減少と弱体化</li> <li>・一期で役員を交代する慣習が変わらず、継続しない</li> </ul>
対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以前のように全交母のような組織を作つてほしい</li> <li>・例年同様の活動は実施出来ず、縮小して実施している</li> </ul>

## 講評 (一財)日本交通安全教育普及協会 主幹 石井 征之

それでは、総括ということになりますけれども、2日間のことを振り返ってみたいと思います。

その前に、実は今朝起きてテレビをつけましたら、パラリンピックをやっていました。柔道ですね。あれを見ていて、ひたむきさとか見ていて、ぐっときて涙が出そうになりました。考えてみると、どうも伊勢神宮の近くに来て、昨日から涙もろくなっちゃったのかなという感じがしておりますが、非常に環境的にはいい場所ということを感じております。

私の講義の内容ですけれども、パワーポイントの内容は全てきれいに印刷してありますので、是非繰り返し見ていただきたい。交通安全については今分からないとか、子どもに対してどうするかということがありましたけれども、ルールの徹底というのは一朝一夕ではできません。何回も繰り返しやる必要があります。そういうことで、私の資料を参考にさせていただいて、是非活用していただければなと思います。

実践発表ですけれども、とまどわず、これは大変実績のあるチームでして、非常に説得力がありました。特に横断歩道での横断旗の振り方について、あれは皆さんもやっているのではないかなと思いますが、視点が全然違うのだという認識を持つということですね。大人の視線と子どもの視線は違うのだという意識を持って旗を振ると。あのあたりが非常に説得力があったように思います。

それから、リフレ糸についてですけれども、反射材というのは非常に効果がある、まして安価なものです。ですから、多く使うことによって効果があります。そこで、色々な試み、おしゃれ感覚を入れてということで、昨日色々やっていただいたのですけれども、反射材を上手く使うということ、これはあらゆる機会を広めた方が良くと思います。

私の知っているところですが、ある高校では、黒い学生服ですけれども、あの背中のところ反射材の糸を使って学生服、制服を作っているという学校もありました。そんなことで、是非反射材を大切に。それから、グループ別の交流が30分あったのですけれども、非常に和やかで、今日のグループ討議につながったと思います。

今日の星先生のお話ですけれども、結局、子どもの教育に対する歴史的なこと、最終的に星先生が言われたのは、要するに、良き交通社会人の育成ということがベースになって交通安全がなるのだという辺りであろうと私は思いました。その中で、特に豊かな人間性のある子ども達を育てる、これが最終的には交通事故のない世界になっていく、この辺につながるのかなという感じを持ちました。

母の会のテーマである「交通安全は家庭から」、これは物すごく大切なテーマだと思い

ますし、物すごく重要なテーマだと私は思っています。そういうことで、このテーマを実施する中で、家庭からということをつも頭に入れながら、子ども達を、豊かな人間を育てていくという視点を持って皆さん活躍されればよろしいのかなと思いました。

グループ討議では、子どもの問題が2班ありました。そこで色々な発表をしていただいたわけですが、子どもに対する指導、要するに、これは星先生がおっしゃったような視点を常に持ちながら子どもに対応していくということが必要かなと思います。

高齢者の問題では、今お話が2人出たわけですが、高齢者の問題というのは、私は自覚を促す、この辺が非常に対応かなと。自覚を促すにはどうするか。もう1つは、高齢者というのは邪魔者扱いしてはならないし、高齢者というのは豊かな経験をしている人達ですので、その経験を利用というか上手く使う方法はないのかなと思います。

例えば星先生のお話にもありましたように、子どもと一緒に何かをやる中で、子どもが理解し、高齢者が理解をする。要するに、高齢者を宝物と考えて引っ張り込んでいくという視点が必要かなと思います。我々の大先輩なわけですから、その豊かな人間性をただ朽ちらせるのではなくて、利用するというか引っ張り込むという視点があってもいいのかなと思います。

自転車のことで色々発表、お話がありましたけれども、例えばバックミラーをつけるというのがありました。これも1つの方法かなと思いますし、自転車のことについては、私は親御さんも含めてなかなか徹底していない。五則が出たのが9年前です。9年前からずっと色々やっているわけですが、五則のことについては何回もお話を聞いたりしていると思うのですが、なかなか細かな部分が徹底しない。昨日、私の話の中でも確認しながら皆さん聞いていただいたと思うのですが、確認をしながら、さらに話を膨らませながら皆さんが活動していくことが必要かなと思います。

それから、飲酒運転の関係ですが、飲酒運転については、どうしてもなくさなければならぬということだと思っております。私の経験で申し上げますと、私の住まいは千葉県で、千葉県には日蓮様の生まれたところで誕生寺というのがあります。日蓮宗の誕生寺、私の家から30分、私の菩提寺で、退職してから私は9年間護持会長をやりました。

最初、護持会ではお盆等、年に4回ほど世話人が集まります。行事が終わってから必ず一杯やるわけですが、私が初めて行った時に本当にびっくりしたのですけれども、みんな近くから来ていまして、軽四でお寺に来るのです。そして、みんなお酒を飲んで帰るのです。もう本当にびっくりしました。

それで、寺の奥さんが物すごく心配して、私に何度も何度も、何とかならないかと。と



というのは、飲んだ場所はどこかということ、お寺です。これでは話にもならないということで、3年ぐらいかかりましたけれども、私はノンアルコールを必ずテーブルに出して、そして、飲酒運転は止めてくださいということを徹底しました。何とか今は完全にノンアルコールで済ませて運転手は帰るようになっております。結局、飲酒運転については絶対に駄目だということで、根気強くやることかなと思います。

最後に、色々なことを言いたいわけですが、皆さん一生懸命活動をやっていますけれども、それを知らせる視点、世の中に広める視点、我々はこのことをやっているのだということをしてできるだけ知らせる。マスコミを使ってでも。FMでやっているというところがありますけれども、これはすごく良い視点だと思います。それから、新聞活動、新聞社を巻き込む、できるだけ自分達がやったものを知らせる。それが結局協力者を多くすることになると思いますので、そういう視点を持っていただきたい。

そして、近くに教習所があった場合、そこを活用する。教習所の方々、先生方というのは、非常に協力的です。特に教習所の社長さんは、地域の交通安全教育センター的な役割を担おうという意識が非常に強い。ですから、協力をお願いすれば快く色々な協力をしてくれると思いますので、教習所との連携、それから、一般企業の事業者との連携、こういうことを模索してみてもどうかと。

そして、保険の関係です。保険の関係で、今、神奈川県大和市では、市内の小・中学校の自転車に乗っている子ども達全てに保険をかける。高校では、600名なら600名いる子ども達、全て自転車で通う子ども達に一括で学校として入るということをやっています。300円ぐらいで1億円の保険がかかるということでやっています。今、多分そういうのが多くなってくると思いますので、今保険に入る時代になっているということは、繰り返し説明する必要があります。非常に高額な状況がありますので、是非これはやる必要があると。

それから、ヘルメットの問題。これも発表がありましたけれども、愛媛県の状況がありますが、なかなか高校生にあれだけというのはできないわけですが、ヘルメット、例えば県の職員は、県庁に勤める者として県民の模範にならなければならないということで、自転車に乗る場合はヘルメットをつけなさいということでやっている県もあるし、また市でも、市役所の職員は自転車に乗る場合に必ずヘルメットを、これは市の模範となるべきだということでやっている市もあります。そんなことで、これからヘルメットがどんどん増えていくのではないかと。格好の良いヘルメットも出てきております。

また、皆さんの組織である母の会ですが、これは1つの視点として、後継者を育てる視

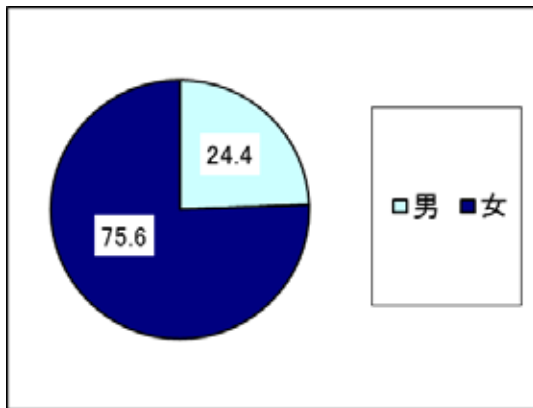
点、これを是非意識して活動していただきたい。後継者を育てる視点ということで。

最終的に申し上げますが、交通安全というのは、何々しては駄目、何々しようということですが、星先生のお話にもあったように、最終的には、豊かな交通社会人の育成ということになるのだと思うのです。それは結局、母の会とか父親を交えてということで、豊かな人間の育成、そのあたりになるのではないかなと私は思います。そういうことを常にベースに持ちながら皆さんの活動を期待したいと思います。

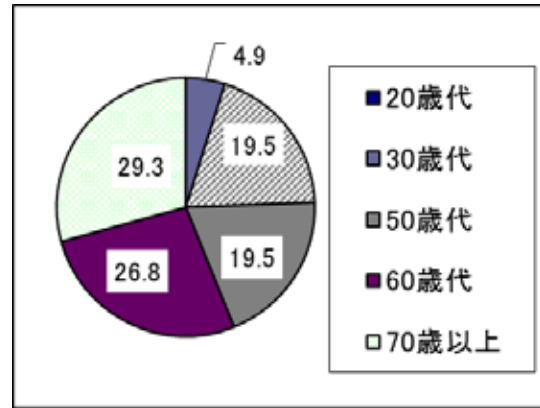
本当に2日間、色々とありがとうございました。

### 3. アンケート集計結果

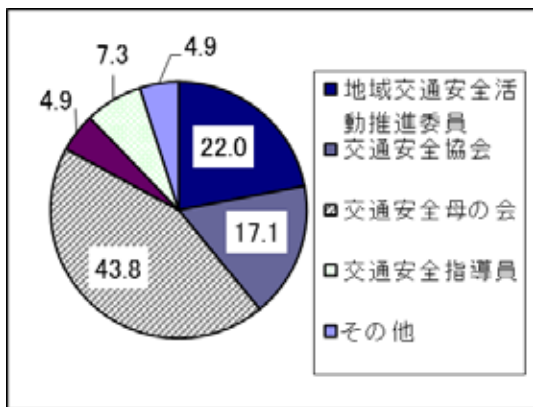
#### 1. 性別



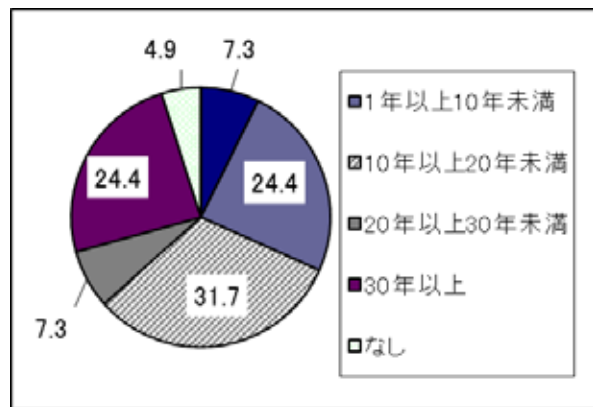
#### 2. 年齢



#### 3. 所属団体

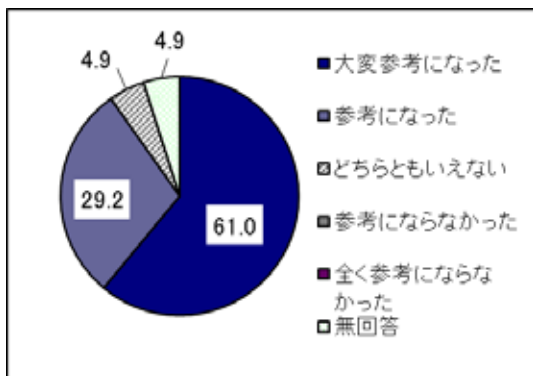


#### 4. 活動年数

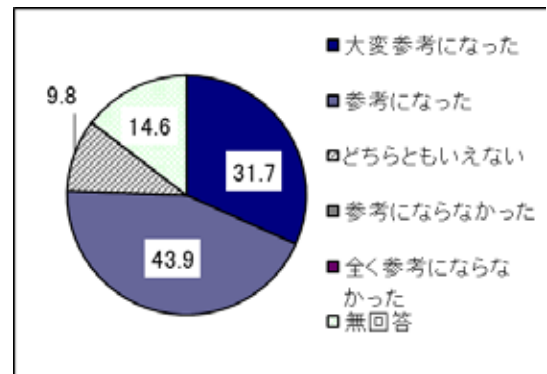


#### 5. 評価

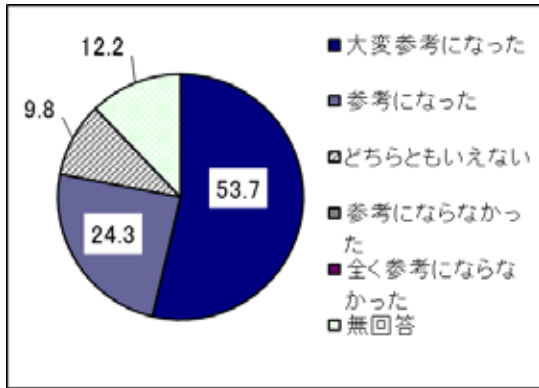
[講演 講師：石井征之先生]



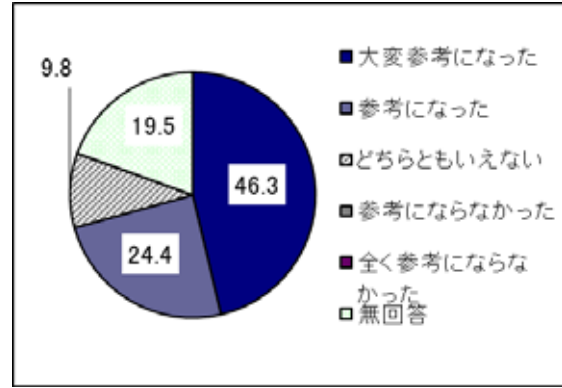
[活動事例発表]



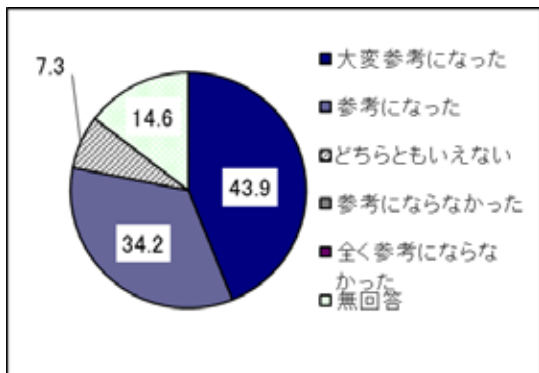
[講演 講師：星 忠通先生]



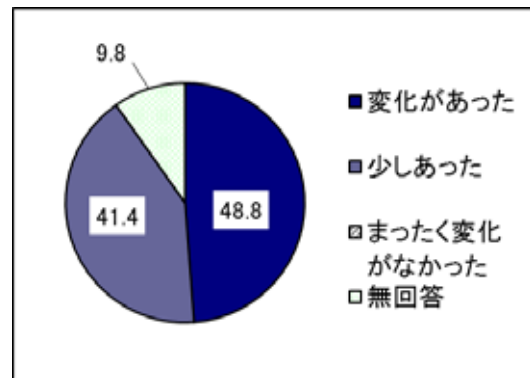
[グループ討議]



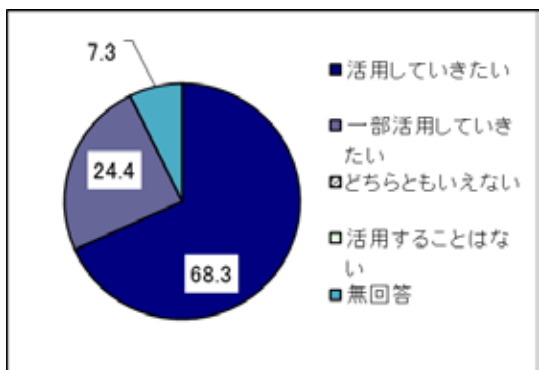
[総合評価] (講習会全体として)



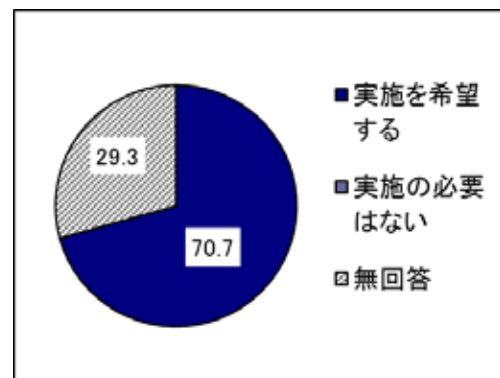
7. 講習会参加による意識の変化



8. 今回学んだ内容を今後の交通安全活動に活用するか



11. 来年度の開催について



## 6. 今回の内容以外で取り上げて欲しいテーマや内容

- ・特に中学生への指導（注意すると「うるさいババア」と言われる）
- ・啓発活動の手法や教材教具について知りたい
- ・交通事故被害者の方の講演（体験談の発表）
- ・日本在住の外国人への安全講習の内容を教えて欲しい
- ・飲酒運転の根絶

## 9. 交通ボランティア活動に必要な知識や技術を向上させるのはどのような機会か

- ・講話のみではなく他団体との交流、体験実技等があれば良い（3）
- ・このような講習会に何度も参加する（2）
- ・講習会で学んだ事を実際に生かせる場があるとよいと思う（免許センターを活用した交通安全教室等）
- ・今回のような「グループ討議」がとても有効だと思う。「聞く」だけの講習より効果的
- ・機会があるごとにきめ細かな安全教育研修が必要
- ・今回の講習で「思いやり」が交通安全教育では重要であり、そのためには相手の立場への気づきが必要
- ・各県単位でも定期的な勉強会が必要
- ・知識と実践

## 12. その他の意見・要望

- ・グループの人たちにボランティア経験者が多かったので親しみやすく参考になり話が伺えて良かった
- ・興味深い内容ばかりで大変参考になりました。これからも子どもの事故、特に自転車についてさらに勉強していきたい
- ・初参加でした。他県の皆さんの活動が大変参考になりました

#### 4 . 記録写真



開会挨拶（内閣府 横山参事官補佐）



講演 石井征之先生



活動事例発表



講演 星 忠通先生



グループ討議



グループ討議発表